

ジモトで座談会 ～市長と明日のまちを考えよう～ 波田地区

1 開催日時・場所

- (1) 日時 令和7年6月25日(水) 午後7時～午後9時30分
- (2) 場所 波田公民館 2階 大会議室

2 テーマ

地域で育む波田地区の子どもたち

3 参加者

市長、住民自治局長、保育課長、学校支援室指導主事、教育政策課課長補佐
地区関係団体 10人、保護者 6人
一般傍聴者1人、市関係者12人、地区職員4人

4 次第

- (1) 開会
- (2) 市長あいさつ
- (3) 地区代表者あいさつ
- (4) 自己紹介
- (5) 地区子育て事業概要の説明
- (6) 意見交換
 - ア 地区内の子育支援活動について
 - イ 地区内の子育て事業・環境等について
 - ウ 子どもの成長に向け地域活動に期待したいことについて
 - エ 中学校の部活動地域移行について
- (7) まとめ
- (8) 閉会

5 意見交換

- (1) 地区内の子育支援活動について

【波田地区子ども会育成会長】

最近の子どもは自己肯定感が低いという話があるが、子ども達は面白いことを企画すれば乗ってくる。

川沿いのキャンプ場で流しそうめんをする計画をしたところ、子ども達が非常に乗ってきて1カ月前にリハーサルをやるという話になった。

また、水輪花火大会ができなくなり寂しい、家で花火をやるのは周りの目が気

になるからやりにくいという話もあり、それならば育成会の活動として手持ち花火大会をやるということになった。商工会、福祉ひろばの盆踊りのグループにも参加してもらい、できるだけ多くの大人も参加して子ども達に楽しんでもらうという企画をした。

文化祭では、農家の方からいただいたカボチャでハロウィンのランタン作り、子ども達に好評で長く続けている勾玉づくりをした。

このような活動は子ども達の自己肯定感を高めることに繋がる。そして大人達にも面白いと感じてもらうために、できるだけ多くの人に協力してもらっている。子ども達にふるさと波田地区は、面白い、楽しいところだと思ってもらえるようになってほしい。



【市長】

いろいろな取り組みを拝見し、子ども達を支える団体が非常に充実していると感じた。そして面白いと思ってもらう、大人も楽しむということが、いつも意識されていて今話を聞いただけでも面白いだろうと思った。

こうした取り組みが成り立たない地区地域もある中で、今行われていることをどう継続していくかということを必要な要望をいただきながら考えていきたいと思う。

【波田地区子ども会育成会長】

最近、地域行事が縮小傾向にあるということは一番明らか。

役員のなり手がなくとも含めて地域活動が縮小傾向にある。

もっと子ども達にも協力してもらって、この地域を面白くしていきたいと思う。

【市長】

20年前30年前と比べると、おそらくそのような現実があると思う。長く波田に住んでいる方もいれば、新しく波田に来て町会のあり方などに少し疑問を持たれている方もいる。地域の活動、行事参加をするということも時代とともに変化していると思う。

今年度、松本市として非常に力を入れていく整理したいと思っているのが、町会を軸とした地域の住民自治のあり方、あるいは組織のあり方の矛盾が出ているものを総ざらいすることである。皆さんに役員や配布物のお願いなど負担になることが非常に大きくなっている中で、本当に必要で残すもの、やらなきゃいけないものが何かを整理をしていく必要がある。

子どもの活動も含めて、大勢の世帯、子ども達が参加しやすい環境作りを皆さんのご意見を伺って進めていきたい。



【ポジ◎ラボ代表】

子ども食堂助成予算の中に学習支援者の謝礼がある。

1回1人につき1,000円、上限5,000円までであるが、支援者の確保が困難な状況。ポジ◎ラボ食堂は9割が中学生以上の利用であるが、中学生になると専門性が問われ、学校と教え方が違う等指摘をいただくことがある。学習塾ではないので学習習慣を身につける程度の支援であるが、どこの食堂も苦勞している。

また学習支援者の謝礼は非常にありがたいが、その予算を食材費に充てることができれば、もっと多くの子ども達を受け入れることができる。

もう一つ、子ども達の体験活動の格差を減らすために、いろんな環境にある子ども達がステージに上がる機会を創出する「波田フェス」を年1回開催している。子育て支援や地域貢献を目的とする当団体の参加型発表ステージの文化祭は、文化施設を利用するのにあたり減免措置が取れないのか。この2点を検討いただけたらと思う。

【市長】

1点目の子ども食堂ですか、松本市は食事の提供を一番大きな目的とする「子ども食堂」から、食事はあまり提供しないけれど少し勉強を教える支援をすることに軸足を置いた活動まで幅広く行っている。

今の話は、学習支援で出ているお金を食材費にも回せる弾力性を持った取り扱いがで

きないかという要望。それぞれの制度は、教育委員会は学習支援に軸足を置いたもの、こども若者部は子ども食堂といったものとなっている。それぞれの部署で政策を考えているが、必要性があれば、できるだけできるようにしていくことは必要だと思う。具体的にそれができないか、直ちにできないとすれば何がハードルになっているのかを担当課と話をしたいと思う。

もう一点の減免措置については、公共性があるかどうかについて松本市がその活動内容を聞き、講演の名義後援をするかどうかということが公共施設の減免をするかしないかの一つの尺度であると認識をしている。

それ以外にも減免措置の尺度はあると思うが、何を減免して何は減免しないのかという線引きが、実態に合っているかどうかということが大事だと思う。

公共性を持って地域の皆さんが行っている活動か子ども達のための活動になっているかという観点から、この減免措置というのは行うべきだと思う。改めて具体的な活動を地域づくりセンターから担当の部に伝達をして、そしてその対象になるのかどうかというのを知らせてほしい。

松本市の公共施設の大きなものと比べて波田のアクトホールの使用率は少し低い。地理的な条件から西部地域の皆さん中心に使われているが、より使っていただくためにも減免の視点について改めて整理したい。



【学校応援団会長】

学校応援団は、あいさつ運動と小学校中学校の登下校の見守りをしている。小学校1年の子ども達の最初の登校、下校の付き添いなどの活動は民生児童委員が中心となって行っている。

中学校のあいさつ運動は20年近く生徒会で決めて活動している。これは大人も一緒にやるべきことだということで、地区の公民館、支所など、それぞれが時間を見て参加する大きな運動となった。

遠足について行く、社会見学で歴史について話をする、スキーの教室へついて行く、スケートの靴紐が結べない子ども達のサポートをする等いろいろな活動してきたが、この時代の流れの中で外への活動が難しくなってきた。コロナ禍のことが一番だが、不安から外での活動の機会が減っている。

また波田小学校の改築が3年も完成しない状態で、子ども達が落ち着いた勉強ができているのか、私は中に入ってみて感じている。各学年があっち行ったり、こっち行ったり、プレハブの2階で机を動かすと下に響くなど、あまりにも学習環境に向いてないことを子ども達に強いている。早めの完成をお願いしたい。

あいさつ運動について、声をかけていれば子ども達はちゃんとわかってくれる。朝会ったらおはようございます。学校から帰って来る時には、お帰りのさいって言うと、最初は恥ずかしそうな顔をするけれど、こんにちは、ただいまって言える子ども達も増えてくる。それが一番のあいさつ運動だなと、誰もが、地域の人たちが言えることが大事なことだと思う。

声をかける、目をかける、見てやる。子ども達を見守る。気持ちをかける。

この子は今どういう状態なのか、子ども達の健康がどうなのかということまで見ることができるような地域の大人になっていければと思う。

昨年から配膳のボランティアを行っている。コロナ禍に保育園で過ごし、小学校に上がる前に配膳の準備をほとんど行わずに座っていた子ども達が、学校へ行って配膳をするようになると、先生の負担や子ども達の戸惑いが大変であった。それに関わって入ってほしいということで、人によっては2週間、大勢の方がボランティアに入った。大人が子ども達の食事の状況を見る、子ども達が一緒に大人と一緒に食べるという経験は大事なことだと思うし、子ども達が食事を並べるということを経験することは、本当に大事なことだと感じている。

先生達がご飯を食べる時間があまりにも少なく、食べる時間もなく飛んで歩いている。また、黙食という言葉もあるように子ども達が静かすぎると感じた。何れにしても子ども達と一緒に食べることは、交流になるし大事なことで、地域の人達が積極的に参加していることは、コロナ禍を過ぎてでも続けていきたいと感じている。



【市長】

あいさつ、そして配膳を通じて声をかける、気持ちをかけるということをやっていたいているのは、子ども達にとって、またお父さんお母さん、先生方にとっても非常にありがたいとお聞きした。

この後、部活の話にもなるが、学校の先生方が本当に1人ひとりの子ども達にできるだけきめ細かく対応してくれる。かつてよりも特別な支援を必要とする子ども達が増えている中で、学校の先生だけではいろいろな対応ができなくなってきているのが実情だと思う。これから地域の大人の皆さんにどのように学校に関わっていただけるか。仕事をしながら時間的にかなりハードルが高いということがたくさんある。どうやって声をかける気持ちをかける、活動を支えるということが出来るかということが、これから松本市全体の課題だと思う。

小学校の校舎の改修については、詳しいことは把握できていなく恐縮だが、これから順次、昭和の時代に建てた校舎を基本的には建て替えではなく大規模改修という形で建設にかかる経費を抑えながら、できるだけ子ども達に安全安心な環境を与えていくということで計画的に進めている。指摘のあったように、子ども達1人ひとりにしてみれば、自分が暮らした6年間の中に端境期で落ち着いて勉強のできる環境が与えられてないということが起きてしまっている。

そのような中で、影響を最小限に抑えるということについては、またそれぞれの学校現場と教育委員会の担当のコミュニケーションをしっかりと密にして、できる限りの対応をするよう心掛けていく。

【スポーツ協会会長】

ジュニアチームは活動が盛んであるが、小学校から中学に行ったときに活動が継続できるのか危惧している。

来月から中央運動広場が使えなくなるので、中学生の部活の場が減り、ジュニアスポーツでも活動が少し制限されてしまう。スポーツ部から便宜を図っていただいているが、もう少しなんとかならないかとう要望もある。

スポーツ協会でも、中学校部活の問題について十分に話をしているが、平日の午後は皆さん仕事をしている方がほとんどなので、指導できる人がいないというのが実情。市の方でも考え方を変えていかないといけない。

また、スポーツ協会には多くの団体があり、施設使用の件でかなり優先していただい

ているが、それでも奪い合いという状況になっている。

【市長】

私も20年前、川崎市で自分の子ども達が所属していた野球チームのコーチや監督をしていた。自分の仕事と重ならない時間帯で行っていたけれども、非常に楽しく、自分の仕事とはまた別の楽しさ、充実感を非常に味わうことができたと思う。

自分の子どもが手を離れても、地域の子子ども達に対して育ちの、学びのサポートができるというのは、年を重ねていって次の世代にバトンを渡していくということを意識するような年代になった時に、極めてやりがいのあることだと自分自身も思った。

中学に行くと、中学の部活があるので小学校の活動は一回途切れるという話があった。事例として話を聞いているのが、地区で太鼓を子ども達に教えるということを長くやっていて、本当だったら中学に入っても続けてもらいたいけれど、中学に入るとそれぞれの部活に入る。これが何よりも優先されるので1回それが途切れてしまう。そして1回途切れると、その先また太鼓を続けるということにならないという話を伺った。

今回の部活の地域移行、この後あるのでここで踏み込まないが、ひとつは、そうした小学校の活動の延長をするものも地域で受け皿としてなっていくとよいと思う。今まで部活といえばスポーツではバスケットボールとかバレーボール、陸上など、文化活動で言えば吹奏楽、合唱などが代表的であった。もちろん、これからも今までの部活をやりたいというお子さんもいるでしょうし、今まではあまり頭に思い浮かばなかったり、本当はやりたいと思っていてもなかったりした部活が、今の子ども達のアンケートなどを取るとある。そうした裾野を種目としても広げていきながら、できる環境をどう整えていくかということを意識していこうと思う。

施設の使用については、どの地域でも必要とする人に比べて十分使えないということが現実にある。波田地区では駅前のグラウンドが病院の移転建築で使えなくなるので、そのしわ寄せをできるだけ小さくするように、ご要望を受け止めながら進めていければと思う。



【児童センター館長】

児童センターは、保護者の方の就労支援と子ども達の健全育成ということを目的に登録制でお預かりしている場所

波田は子どもの数が多く、それと共働きしているご家族が多くなってきたこともあり年々登録児童数が増えている。

少子化とは関係なく、今年は4月の時点で330人の子どもが児童センターに登録している。毎日利用している子どもは大体240人前後で、毎年座卓を増やしたり、ロッカーを増やしたり、下駄箱も増やしたりしながらお預かりしている状況

この状況を改善するために、少し前から波田放課後児童クラブと統合し、児童センターと波田中央保育園の2階に児童クラブ室という形を取り、2カ所で子ども達をお預かりしている。今年は児童センターの方1年、2年、5年、6年生が生活児童していて、児童クラブ室の2階の方に3年生と4年生が生活している。分かれているため全員が交流し合える場所ではないのがとても残念。行ったり来たりして交流をしたり、掃除の活動を縦割りグループでやったり、いろいろな行事を縦割りで行うなど工夫はしているが、密度が高く全体に目が行き届かないような状況。子ども達の健全育成になっているのか、安心安全にゆとりを持って家庭と同じような状況で見えあげられているのかと毎

日葛藤している。職員の人員不足もあり、手厚く見てあげられないのが悩みの種で、本当に苦労して過ごしている。人員や場所やスペースが何とかならないかと思う。

【市長】

日本全体で大体7割が共働き、専業主婦の方の夫婦が3割という状況で、共働き子ども育てということが大半を占める社会になっていて、ますますなっていくと思う。

3歳未満児の保育園の受け皿が急速に必要な状態が増え、保育士の人数の確保が追いつかない状態が続いている。

また、小学校に上がってからは、児童センターあるいは放課後児童クラブに登録し、子どもを預ける保護者の皆さんが非常に増えて、施設の狭隘化や人員の不足ということが大きな課題だと思う。これは35地区共通する課題で、その中で波田児童センターについては二つの施設に分かれている現状を説明いただいた。

こども育成課に話を聞いたが、4年前にできるだけ近くに児童センターの機能は統合しようということで今の形になったと報告を受けた。

結果的に隣接はしていても一つの建物でないということの制約があるということをお話を聞きながら感じた。

これを一つの建物というわけには直ちにはならないが、ご苦勞されながら取り組んでいるということは、しっかりと認識をしていかなければいけない。

そして、安心安全、ゆったりと子ども達と過ごしてもらえる環境をこれから作っていくよう中長期的な課題として、そういう視点で取り組もうと思う。

また波田の場合は、まだまだ子ども達が少なくなる状況ではないので、直ちに当てはまらないかもしれないが、小学校中学校の施設をもっともっと有効に活用してもらう。例えば、明善小学校のケースでは、それまで施設の外にあった放課後児童クラブを学校の敷地の中に建物を作り、授業が終わったらそのまま敷地内の建物で過ごすことができるようになった。ただこれ実は、だったらもっと利用したいと需要が増えてしまった。すぐ手狭になるということが起きてしまった。

先生方の負担にならないようにということを意識しながら、放課後の学校の校舎を放課後児童クラブあるいは児童センター的なことに使える状況を作るということをこれから進めていきたいと思う。

そのためには、鍵の問題、先生方だけ立ち入るような場所と開放しても大丈夫な場所の仕切りなど校舎の中の構造も変えないといけないところがある。これから子どもの数や人口も増えないという中で、公共施設をあれもこれも維持したり充実させたりしていくことは限界がある。

地域にとって多くの人々がまとまって使える場所は、公立の小・中学校であるので、校舎やグラウンドをもっと夕方から夜間も含めて、それぞれの活動をしてもらえるような環境になるよう教育委員会とそれ以外の市長部局で検討を始めた。

更に学校は避難所としても使われる場所なので、トイレやエアコンや、いろいろなアメニティを充実させていく必要がある。とにかく学校にいろいろな機能を集約して、充実させようということの中長期的に考えている。少し先を見据えたときに、このまま児童センターとか放課後児童クラブというものをどこで運営していくことが、子ども達にとっても支える人たちにとってもよいかということを考えていきたいと思う。



(2) 地区内の子育て事業・環境等について

【みつば保育園保護者会 会長】

保育園でアンケートを取ったところ「幅広い年齢層の方の人たちが集まれる共有スペースが欲しい」「核家族化が進み交流が少ない」「一緒に体を動かしてもらいたい」「地域全体で見守れたらと思う」という意見があった。

また低学年時における通学手段の柔軟な見直しについて、小学校までの徒歩片道40分から50分程度の地域が原則として徒歩通学と定められているのは理解したうえで、低学年のうちだけでも駅が徒歩圏内にある地域に限っては、小学校から自宅の距離にこだわらず、柔軟な通学手段の選択肢があってもよいのではないかという意見があった。

【市長】

波田の子ども達は158号線沿いを歩くことになる。その安全性とか通学時間の問題とか、どのくらいそれが子ども達にとって負担になるか。改めて具体的な話を小学校の校長先生に教育委員会を通じて聞き、それによって今のその距離で線を引いていることの妥当性について考え、検証したいと思う。

波田の場合は鉄道があるが、松本市内の小学校で交通手段がない場合の方が多く、スクールバスの利用ができるかどうかは距離要件を定めている。四賀地区の小宮団地の皆さんから、この地区は厳密に言うところちょっと短いけれども、そこにまとまった子ども達がいるから対象にならないかというご要望を受け、距離要件を緩く捉えることになった。今のお話も改めて学校や教育委員会や担当に確認していきたい。

【洸東保育園保護者会 会長】

子どもが遊ぶ公園が本当にない。近くに遊園地という広場があるが、遊具も少ししかなく、子ども達が遊びに行くにも道路を渡らないと行けない場所にあるので、危なくて子ども達だけで行ってと言えず、あまり行かせることができていない。

遊ぶところがない分、家から出ることがほとんどない。安心して遊べる公園やそういった敷地が少ないという印象。

区の役員も子どもが少ない分順番が直ぐ回ってくる。地区の役員も負担になっていると他のお母さんから意見を何度か聞いたことがある。家庭の事情がある人もいるだろうし、子どもが小さいと役員はできないと言う人もいますので考えていけたらありがたい。



【市長】

波田は児童公園の現状はどうか

【波田地区地域づくりセンター長】

大きな公園で扇子田運動公園があるが、東の端にあり子ども達が気軽にという場所ではない。児童公園は何力所かあるが、それぞれの町会にまんべんなくあるという訳ではない。

【市長】

公園にはいろいろな種別がある。公園緑地課が管轄している都市公園から地域の小さな児童遊園は別のところが所管。さらには昔の村や町時代に農林水産省の予算で農村の

地域振興で作ったものもある。いろいろな公園が多岐に渡って存在している。

利用する方々から見れば関係のないことなので、総ざらいをして、できる限り遊具の更新は早くやってもらっている。公園の大小もあるが、ユニバーサル遊具という障がいを持っている子ども達も元気なお子さんたちと同じように遊べるような遊具も普及し始めている。比較的大きな公園からということで、アルプス公園、芳川、庄内から導入をしていく。そしてできる限り古くなった遊具を更新し所管を超えてスピードあげてやっていく。

【波田中央保育園保護者会 会長】

夫婦揃ってリモートワーカーとして移住し3年目になるが、本当に毎日幸せいっぱい、この場を借りてお礼がしたい。育成会はいろんなことができて、いろいろ参加させていただいき本当にありがたく思う。

応援団も、保育園では1人で歩いたことがなく小学校に入って1人で帰ることにハードルが高く感じていたところ、民生委員の方とかが付き添ってくださったおかげで、私達も安心して過ごすことができた。また松本の子ども達は横断歩道で車で止まってくれた方にお辞儀をちゃんとして、通った後もお辞儀する。この流れは本当にすごいと思う。



あと保育課の方、いつどなたに電話しても対応が素晴らしく、電話をかけるたびに違う方が出るけれど不安になったことが一度もなく、職員の方々に本当にありがたい気持ちでいっぱい。

長男が児童センターに通っている。2手に分かれているから働いている職員さんはいろいろあると思うけれども、長男はとても楽しくセンター行っていて、地域の方々と職員の方々と本当に幸せに暮らしている。

要望は一緒に、公園があることでセンターにも行かなくていいと思う。私達はまだまだゲームをして欲しくなくて、センターに行くのが楽しいので行かせているが、公園があれば公園でいい。

扇子田運動公園だったり、アルプス公園であったり、梓川ふるさと公園だったり、大きい公園、素敵な公園がたくさんあるけれど、全部車で行かないといけない。親が連れて行かないと行くことができない。

徒歩圏内に公園があれば、公園に行くことへのハードルが下がる。大きな公園に行つて遊ぶためには、わざわざ親等が連絡を取る必要があるからとてもハードルが高い。たまたま公園に行つて、また会ったねっという感じで自然と仲良くなる機会が公園がないことによって失われている。

本当にここで幸せに暮らしているけれど比べてしまう点は、横浜に住んでいるときは徒歩圏内にせいぜい10分歩いたら自然と集まれる場所があったけれど、ここにはない。

あと地域的に寒くて冬になると外で遊べない時、雨が降った時、室内の遊び場としては大町のアルプス公園に大きい室内遊び場があるけれど、そこまでは1時間かかる。波田子どもプラザがあるが、平日の5時ぐらいまでしか空いてないし、対象が未就学児なので長男は入れない。

そうすると土日どこ行こうという時に困ってしまう。イオンなどの選択肢もあると思うが、できればアクトホールの中に室内で土日遊べる施設があったらいいと思う。

【市長】

移住されてきて、地域の皆さんの繋がりの中で子どもを育てるということが、東京圏で子どもを育てることと比べて非常に良いと思っていただける方をもっともっと増やしていきたいと思う。

私も10年前に故郷戻る前は川崎に住んでいて、公園や民間も含めた国内の子どもがいろんな楽しみ方ができる施設が揃っていたので自分もそう思うし、市長になってから同じ要望をたくさんいただく。

比較的近いところに子どもが気楽に行って、そしてお父さんお母さんもそこでコミュニケーションが図れるような公園、松本市内でも比較的それを作ろうと思えば作れる地区と、その場所の確保が極めて難しいという地区があると思うが、波田は印象論になるかもしれないが、そういう場所があるのではないかなと思う。

波田の中でバランスを考えながら、今ある公園やあるいは土地有効利用されていないような場所を例えばセンター長のポジションの職員が、波田で言ったら例えばこういう場所だったらという可能性の選定をする。

行政の苦手なことに公平でなくなるようなものをやるということがある。松本市全体を一つの尺度で画一的にやろうとしても中心市街地と郊外部と更に山間部と前提条件が違い、課題や要望も違う。それを我々は認識をしたうえで、できるだけそれぞれの地区とか地域単位で物事の優先順位をつけてもらいながら、予算の配分をしていけるような仕組みを大きな意味で目指していく。

そして、もう一つの首都圏ではかなり充実している「雨の日や寒い時に屋内で幅広い年齢層がいろんな活動や体験ができる施設」これはあちこちに作れるものではないと思うので、松本市の中の一番人が集まるところにそうしたものを作れないかということは、私もこの2、3年の中でテーマとしている。

松本市の自然環境や東京ではできない豊かさというものを昔の友達や仲間にも伝えていただき、私達ももっともっとアピールをしていく。役員のなり手の問題あるいは地域の子どもの達を支える人たちの数も、ここに住む人たちが増えることで子ども達が増え良い方向になっていくと思う。現状において子どもが減っていない地区は限られている。芳川地区とか、庄内地区、波田。今日も子どもというテーマを取り上げていただけるのもあり、子ども達の問題を何よりも大事にしようと思っていただく方が多い。



【波田ひがし保育園保護者会 副会長】

西部保健センターや図書館は立派な施設なのに人が少ない印象があって、もっと有効利用したほうがいいのではないかなという意見があった。病児保育を波田地区に作ってほしいという意見がとても多く、近くだと梓川診療所があるが、いっぱいだったりするので、波田地区にも作るとか受け入れを増やしていただけたらありがたいと思う。

波田ひがし保育園の出入り口の施設が子どもでも開けられる場所が2カ所ある。簡単に開けられてしまうので心配で何年も前



から要望をしている。また排水対策があまく大雨が降るとすぐ水浸しになり、水が引かず職員玄関側から通らなさいいけないこともあるので考えていただきたい。

保護者会費の補助について、もうちょっと増やしていただけるとありがたい。以前は7万円くらいいただいていたが、削減されて3万5千円になった。物価高で子どもにかけてあげられるお金が少なくなっている。

【保育課長】

波田ひがし保育園の入口、確かに簡易であることを認識した。施設担当と話をして対応したい。保護者の方には不便になると思うが、例えば登園が済んだら鍵をロック、チェーンみたいなものをつけると外からも中からも開けることはできない。途中から登園される場合には東側から出入りしていただくことになる。そういった方法も含めて検討を進める。

水はけも悪いが、土壌改良でとすると大がかりになるので抜本的な改善は難しい。

保護者会費の補助は今年度市長から指示があり4万円、1万円増やしている。

【波田地区地域づくりセンター長】

西部保健センターは、高齢者の皆さんの団体がほとんど使っている。地域の皆さんに使っていただけるよう貸館について推進していく。

【市長】

病児保育ですが、松本市内は四つの医療機関で受け入れている。

相澤病院、丸の内病院、芳川の松本医療センター、梓川診療所。基本は医療機関側からの要望により運営している。

混雑する時期もあると思うが、年間通しての梓川診療所の稼働率は29.8%で、7割ぐらいは空いている状況。相澤病院が56%、松本医療センター44%。四つの中では一番稼働率が低い。地域バランスなどを考えても基本的に波田の方には梓川診療所をご利用いただきたいというのが私たちの考えになる。

【波田小学校PTA会長】

昨年の校長先生までは40分授業で、だいたい3時15分が帰りの会だった。

今年、校長先生変わってから45分授業に変更になった。帰りの時間は変えずに授業時間を5分伸ばしたので、間の休憩時間が短縮され5分休憩になっている。今、小学校は工事中で、仮校舎と本校舎に分かれて授業を受けているので子ども達が移動教室で外へ出なさいいけない。移動距離がある中で5分しか休憩時間ないので、トイレにも行けないトイレに行っていると授業に間に合わないという子ども達の意見が多くあった。

松本市全体でも40分授業というのは推進されていることなのか、下校時間は延ばしてもと良いのではないかと。子ども達がゆっくり次の授業に行く準備ができる時間を設けていただければ。

【教育監】

授業時間のゆとりを持つようにしたということは聞いている。今年45分授業になって5分の余裕がなくなったことについては、おそらく学校も検証していると思うので、



また先生方にどのような検証がされたのかというのは聞いてみたい。45分授業というのが松本の小学校の基本です。

中学50分小学校45分授業それと下校時刻は校長先生が裁量で決めている。

(3) 子どもの成長に向け地域活動に期待したいことについて

【波田中央保育園保護者会 会長】

町内会で使われる、1区2区という数字の呼び方に慣れず困っている。14区と言われても転入者にとってはわかりづらく、何々区の〇〇さんの畑集合と言われてもわからないことがある。私達としても、もっと松本に越してきて欲しいし、呼び名が変えられないか。

【市長】

私もちょっと疑問に思っていた。松本市内で旧町名といいますか、それぞれの地域の呼び名が残っている方が大体なので、数字で地域が分けられているのは波田ぐらい。歴史的ないきさつか何かがあるのか。

【波田地域づくりセンター長】

過去に探った経過もあるが誰に聞いてもわからなかった。越して来られた方に何区と言ってもどこかわからないということもあるので、昨年、町会区域図を作った。それぞれの町会の施設を入れた地図を市のホームページの波田地区の掲示板に掲載しているので、それを参考にしていただけたらと思う。

【市長】

新島々とか上波田とか三溝とか、何かそういう中括りがあってその中に呼び名があるだけでも、だいぶ地理的な整理ができる気がする。街中で言うと、昔の旧町名の方がわかりやすい。それが中央1丁目と言われても、それがどこかがわかりにくいというのは街中でもずっと言われている。何となく歴史的なこの町のありようをイメージしやすいというのもあり、この旧町名を復活できないかというのは、街中の人たちからも意見が出ることもある。



波田の皆さんの中で数字ではない読み方みたいなものを面白がりながら、普及させるみたいなことは、おらがふるさと意識をしてもらうのは大切ではないか。

【波田中央保育園保護者会 会長】

松本市子ども110番の家というのは存在するか。子ども110番の家っていう札が一般の民家にあって何か困ったときに入っていいよっていうもの。そういった場所をどれぐらい子ども達が把握しているか。何かあったときはそこに飛び込む。うちは小学校が近いので、子どもの友達に何かあったらうちにおいでと言っている側。何かそういう表示があると安心できるのではないか。

【学校支援室 指導主事】

春先に安心安全の家になっているところにはあいさつに行く。子ども達には教えるというより、通学路にその家があるので見てもらう。

協力してもらっている家庭のその看板がもう日光、紫外線やなんかで色あせていて、どうやって取り変えればいいのかというのを伺っている。

【波田地区地域づくりセンター センター長】

まんべんなくあるわけではなく、商店などに協力をお願いして看板かけていただいている。看板の取り替えについては調整して対応する。

(4) 中学校の部活動地域移行について

【波田中学校PTA 会長】

部活動地域移行は三つ必要なものがある。指導者、場所、組織。

私は剣道のチームの指導者を10年ほどやっている。スポーツ協会の加盟もして、一昨年から波田中学校剣道部の地域移行に際し、いろいろとうまくいかないところの中で指導をすることになった。息子も今剣道部に入ったが、たまたま私は自営業で時間のやりくりができる。

剣道部は今年度から二つのチームで活動、剣道部はこの夏、この週末の大会で全員がおしまいということになり、その後は剣友会で中学校の部活のようなイメージで放課後にホールを使って活動ができるように教頭先生校長先生に去年から交渉している。あとはマツチャレや市の取り組みのサポートを受けながらやっていこうと思っている。

小さいところはない競技もあるので、そこについては時間がかかるかもしれないけれど少しずつ地道に指導できる人を見つける。

学校の先生たちの中には部活をやりたくて学校の先生になっている人がいる。その先生にとって部活動をなくすということは生きがいを奪うことだと思うので、先生たちもやりたいと一緒にできる仕組みが必要だと思う。

合唱部の先生が、定年退職後も波田に再任用で残っていただく中で合唱クラブを立ち上げた。清水中学と合同で合唱部を合唱クラブとして民間移行を進め、かなり進んでいる状況。

波田のケースは、剣道部と合唱部は比較的うまくいっていると思う。他の地域に横滑りができるかどうかかわからないが、そういった成功事例を各地区で作っていき、そしてそれを広げていく。



【市長】

今の言葉の中に部活のようなイメージという言葉があった。

実は部活のようなイメージのものは残していかなきゃいけないし残っていく。

つまり我々が今このままでは続けられないから、このままの形を変えようというこのままとは何か。これは中学校のほとんどの先生が部活の担当になり、そして土日にも極めて低い報酬で競技や発表会に付き添っている。これを既存の仕事を全て残すことを前提にこれからも続けていくことはできないということ。

私も部活人間でしたので、部活の楽しさや教育的意義は実はある意味誰よりも言いたいタイプですが、一方でそもそもそれを続けることができない状況にあるというところが出発点だということは理解いただきたいと思う。

長野県全体で取った教員の皆さんへのアンケートで、これからもこの部活のようなイメージのものを含めて自分が指導を行いたいのかという質問に、行いたいと思っている

と答えている方は20%強。そのぐらい少ない。特に若い世代の先生方はもう開放してほしいという気持ちを大きく持っている。

教員志望が少なくなっている中で、これからも先生として子ども達の学びを支えることに意欲を持っている人たちを学校から遠ざけないためにも、ここの改革に取り組まなきゃいけないというのが出発点

そのうえで、部活のようなイメージはできるだけ残したい。それは何かといえ一番は学校の施設で活動ができるということだと思う。

子ども達にとって放課後学校のグラウンドとか体育館とか教室が使える。引き続き私はやりたいと思っている先生方には当然やっていただければいいし、もう開放して欲しいと思っている方の代わりになる人材を幅広くどうやって集めていくか。部活のようなイメージのものは、できるだけそれぞれの中学校に残して続けていけることを目指していく。

一方で、今までの中学校の部活の種目というのは昭和の時代に子ども達がやりたがった種目が続いていて、アンケートを取るとスポーツで言えば一番人気があるのはバドミントン。必ずしも我々にとってメジャーだった団体競技が子ども達がやりたいと思っている上位ではないという現実もある。

さらにその子ども達の中に、いわゆる勝つための目的を持ってやりたい、その種目をつけ続けたいと思うようなことを目指している子ども達もいれば、もう平日は必要ない、週に1回か2回自分が好きなスポーツや文化活動を楽しめれば十分だという子ども達もいる。

できるだけ今の子ども達の必要性というものに我々が目を向けて、そして部活のようなものを中心に、今まで小学校の頃に活動していたものが中学校でも行うクラブ活動になる。そういうものができるだけその地域にたくさんある状況を作っていかなければならないと思っている。

基本的には同じ気持ちの認識を持って取り組もうとするつもりですが、そうは言っても一番はこの部活のようなものをそれぞれの学校でしっかり受け皿ができる。あるいはそれ以外のものも含めて指導者になる、自分の時間や仕事の融通をつけて参加するという人たちを私達がどうやって掘り起こして、そして参加しやすいような形を作っていくか。

まだまだ見通しがつかない地区地域も多々ある。皆さんへの十分な情報提供ができてないところもあるが、何とかしっかりと現状を伝えながら子ども達の選択肢を増やして、今までやってきたことができないじゃないかということがないように近づけていきたいと思う。



【波田中学校PTA 会長】

保護者意識としても変わらなければならないと思う。保護者に意識を啓蒙する。本校職員の立場もあるけれども、市の人たち教育委員会、先生方だけに任せるっていうことは絶対にないようにしたい。全員ができることではないが、やれる人がやれることを無理ない範囲でやるっていうことが、地域移行への意識と姿勢だと私は思う。

【波田地区社会福祉協議会 会長】

一つ心配なのが、その指導者の方の人間性といいますか、これは中学じゃないかもしれないが暴力だとかハラスメントの問題が度々報道されている。そういった対策につい

でも、しっかり進めて行っていただきたい。

【学校支援室 指導主事】

一般の指導者が来たときに、先生みたいにちゃんと子どもの面倒見てくれるのか。暴力なんか振るわないか、ハラスメントや嫌がらせなんかしないかと心配する声がある。

私達は年何回か研修会を開くことにしている。マツチャレという登録団体を今作ろうとしているが、ここになるためには必ず研修を受けてもらう。創設補助金交付にも必ず資格を持っている人達を対象にするとか、教育的にも技術的な指導もそうだしハラスメントのないように考えている。



【波田スポーツ協会 会長】

最終的に松本市のスポーツ協会が全部関わらないとうまくいかないと思う。

実践的なものは協会の役員が一番わかっていると思うので、例えば指導者に資格がないとできないとか、資格を取る機会を増やしていかないと絶対に回っていかなくなってしまう。

ジュニアの指導者は本当に頭が下がるほど精力的にやっている。

ただ、中学に入ると辞める子がいて、継続的できない何もやらないっていう場合もある。先日、中学の会議の中で部活はやらないけど地区のチアリーダーがあるという話があった。そういう別の活動も考えて、いろいろなクラブを作っているいろいろな環境に進めるようにしなければいけないと思う。

6 まとめ

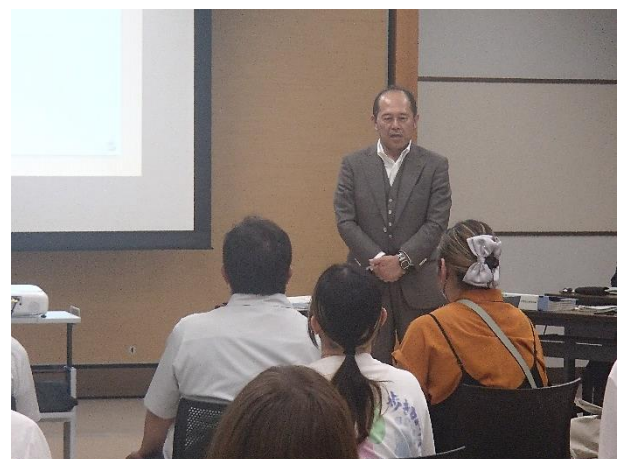
【市長】

これが何力所目か正確にはわからないが、一番盛り上がった。

それぞれの方が子どもに対してこうしたい、こういったことが望ましいという気持ちをととても強く持っていて、尚且つ我々に対しての具体的な要望もありながら、自分達としてはこうして行くのだというお話も併せて聞かせていただいた。行政だけとか、ここだけとかいうことではなく一緒になってやってくのだと。そうやっていかなければ難しい状況時代になっていくということがベースとして共有できた時間だったと思う。

今日いただいた話を直ちに着手できるものから、一つひとつしっかりと事務レベルで落としてやっていく。

松本35地区の中で人口や子どもの数がまだまだ縮小傾向に入っていない地域だからこそ、松本全体のあり方を引っ張っていけるそういう地区として、ぜひ皆さんには頑張ってもらいたいと思う。一人ひとり仰っていただいたことに取り組んでいただき、そして私達も波田地区の課題をしっかり詰めていきたいと思う。



【波田地区町会連合会長】

皆さんと情報交換し有意義な時間を共有できたことに感謝したい。

大いに発言をいただき、地区の住民と今後の波田地区の方向性を考える良い機会になったと思う。臥雲松本市長並びに関係幹部の皆さんには熱心に対応していただき、本当に感謝申しあげたい。今後とも地区発展のために、ぜひ市のご協力をお願いしたい。